

## 精神障害者の社会生活支援に関する基礎的研究

築瀬, 誠

---

<https://doi.org/10.11501/3181881>

---

出版情報：九州芸術工科大学, 2000, 博士（芸術工学）, 課程博士  
バージョン：  
権利関係：

## 第4章

# 精神障害者の作業所通所目的と就労に対する態度に関する研究

### 4-1 はじめに

精神障害者小規模作業所（以下、作業所と略す）は、在宅の精神障害者を対象とし、作業活動などを通じて、社会復帰と社会参加を促進することを目的とした施設であるが、生産的な作業活動によって収入を得たり、就労援助を行うという特徴を有している。そして、作業所の多くが精神障害者の家族会によつて運営されており、また半数以上の作業所の年間の運営費は、500万円以下にとどまっている（全家連、1987）。

このような作業所は、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（精神保健福祉法）には規定されない法外の無認可施設ではあるが、精神障害者のための社会復帰援護対策の遅れや社会参加のニードの高まり等を背景として（藤井、1998），近年、急速にその数を増やし、精神障害者の生活支援の拠点として重要な役割を果たしている。

しかし一方では、作業所の活動の拡大に伴いいくつかの問題点が指摘されている。その一つが、荒井（1993）が作業所の運営上の問題として、「作業所には憩いの家ふうの集いの場、社会復帰訓練の場、長期的福祉就労の場などさまざまな機能が混在しており、指導体制も整っていない」と述べるように、作業

所の機能は多様でありながらも指導体制が充分に整っていないということである。したがって、作業所においては、通所者がどのような目的で通所しているのかを把握、整理し、精神障害者の生活支援を行う上で配慮すべき内容について検討することは重要である。

また、配慮すべき内容について検討するためには、精神障害者の性によるニーズ等の違い（Seeman, 1983；築瀬ら, 1999b）や年齢による生活課題、生活支援の目標の違い（内藤, 1998）にも考慮する必要がある。

そこでこの章では、作業所の通所者を対象とした調査を行い、まずその通所目的を把握し、さらに作業所の就労支援の役割に注目した上で通所者の就労に対する態度を明らかにすることを試みた。そして、通所者の性、年齢による通所目的と就労に対する態度の違いについて分析し、作業所で生活支援を行う上で配慮すべき内容について検討を加えた。

## 4－2 対象と方法

1998年8月1日現在、6か所の作業所に通所者として登録されている101人に對してアンケート調査を実施した。調査期間は、1998年8月から10月までの3か月間であり、調査票の配布および回収は郵送で行った。

調査票には、通所目的に関する22項目（表8）と就労に対する態度に関する10項目（表9）の質問が含まれており、前者の質問項目に対しては、「とても重要である」「やや重要である」「あまり重要でない」「まったく重要でない」の4段階で、そして後者の質問項目に対しては、「とても思う」「少しある」「あまり思わない」「まったく思わない」の4段階で回答してもらった。また回答する際には、施設責任者が質問項目の内容を説明し、通所者が記入す

るという方法をとった。

調査票の通所目的に関する質問項目は、これまでいくつかの報告（全家連、1987；藤井、1990；猪俣、1993）で示されている作業所の機能を基に選定し、また、就労に対する態度に関する質問項目は、著者が担当している病院での就労についての話し合いにおいて、精神障害者から出される話題のうち、就労に対する態度を表していると思われるものを選定した。

表8 通所目的に関する質問項目

- 
1. 金銭の使い方を学ぶ
  2. 収入を得る
  3. 仕事につくための気力や体力を養う
  4. 作業所に通所することで、規則正しい生活を送れるようになる
  5. 他の通所者と楽しく過ごす
  6. 悩みを相談する
  7. 仕事に必要な人との付き合い方を学ぶ
  8. 働いているという喜びを得る
  9. 体調の悪いときに面倒をみてもらう
  10. 仕事につくための情報を得る
  11. 家族との関係をよくする
  12. 娯楽や趣味について話を聞く
  13. 人とうまく付き合う方法を学ぶ
  14. 病気の症状を軽くする
  15. 自分の能力に自信が持てるようになる
  16. 気分が落ちつき安心できる
  17. 仕事につくための技術を身につける
  18. 一日に決められた仕事をこなすことで充実感を得る
  19. あいさつなどの礼儀を学ぶ
  20. バスなどの交通機関を使う方法を学ぶ
  21. 一日の生活が家の中だけにとどまらず外出する機会になる
  22. 考えている事ややりたい事に自信が持てるようになる
-

表9 就労に対する態度に関する質問項目

- 
1. できるだけ早く仕事につかなくてはいけない
  2. 仕事につくことは難しいことだ
  3. 仕事につかなくても、友達とのおしゃべりや趣味に生きがいをみつければよい
  4. 仕事についていないことは、はずかしいことだ
  5. 仕事につかなくては、一人前にはなれない
  6. 仕事につかなくても、家事や家の手伝いに生きがいをみつければよい
  7. これから仕事につけるか不安だ
  8. 両親や兄弟、親戚などに仕事につくことを期待されている
  9. 現在仕事についていない理由を両親や兄弟、親戚などが理解してくれている
  10. 仕事についていないことを近所の人人に知られたくない
- 

#### 4－3 分析対象および分析方法

101人中79人の調査票が回収され、回収率は78.2%であった。分析対象者は、調査票を回収できた総ての者としたが、回収された調査票の中には未記入の質問項目が含まれるものもあり、その場合には未記入の質問項目のみを分析の対象から除外した。

分析対象者79人の内訳は、男性52人、女性27人であり、平均年齢は、全体で40.9歳、男性40.2歳、女性42.3歳であった。

分析は、通所目的および就労に対する態度に関する質問項目共に、まず全体の傾向を明らかにし、次に性による違いを明らかにするために男女間で比較し、さらに年齢による違いを明らかにするために、40歳未満（男性24人、女性11人、合計35人）と40歳以上（男性28人、女性16人、合計44人）の2群間で比較した。それぞれの比較では、まず有意差検定をおこない有意差のある質問項目を明かにし、さらに通所目的では「とても重要である」、就労に対する態度では「とても思う」と回答した者の割合に着目し、2群間でこの割合に大きな差（10%

以上) の見られる質問項目を明らかにした。有意差検定では、4段階の回答を順位尺度として扱い、Mann-WhitneyのU検定を用いた。なお、今回40歳を境に2群に分けたのは、内藤(1998)が、「精神障害者の年代毎の課題は30歳台では就労、40歳台では身の置きどころの探索、生活にまつわる生活訓練、QOLの向上、生活破綻防止である」としており、このことより40歳台が就労に対する態度が変化する時期であろうと判断したためである。

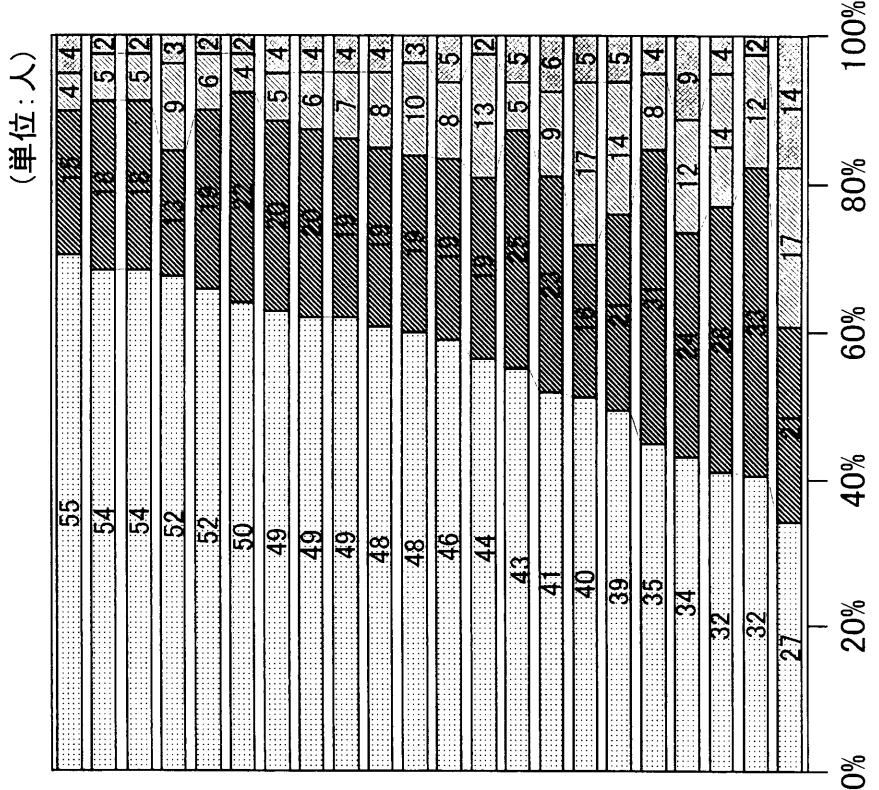
## 4-4 結果

### 4-4-1 通所目的

#### ①全体の傾向

通所目的に関する質問への回答結果を図1に示す。この図1では「とても重要である」と回答した人数の多い順に質問項目を並べてある。最上位の質問項目は、「病気の症状を軽くする」55人であり、次いで「作業所に通所することで、規則正しい生活を送れようとする」「あいさつなどの礼儀を学ぶ」「家族との関係をよくする」「気分が落ち着き安心できる」「一日の生活が家の中だけにとどまらず外出する機会になる」「一日に決められた仕事をこなすことでき充実感を得る」「他の通所者と楽しく過ごす」「仕事につくための気力や体力を養う」「働いているという喜びを得る」の順であった。

また、「とても重要である」と「やや重要である」と回答した人数の合計を見ると、最も合計人数の少ない「バスなどの交通機関を使う方法を学ぶ」においても48人と過半数を超えており、総ての質問項目において「とても重要である」と「やや重要である」と回答した人数が「あまり重要でない」と「まったく重要でない」と回答した人数より多くなっていた。



□ とても重要である □ やや重要である □ あまり重要でない □ まったく重要でない

図1 通所目的

1. 病気の症状を軽くする
2. 作業所に通所することで、規則正しい生活を送れるようにする
3. あいさつなどの礼儀を学ぶ
4. 家族との関係をよくする
5. 気分が落ちつき安心できる
6. 一日の生活が家の中だけにとどまらず外出する機会になる
7. 一日に決められた仕事をこなすことで充実感を得る
8. 他の通所者と楽しく過ごす
9. 仕事につくための気力や体力を養う
10. 働いているという喜びを得る
11. 自分の能力に自信が持てるようになる
12. 収入を得る
13. 考えている事ややりたい事に自信が持てるようになる
14. 人とうまく付き合う方法を学ぶ
15. 悩みを相談する
16. 仕事につくための技術を身につける
17. 仕事につくための情報を得る
18. 仕事に必要な人の付き合い方を学ぶ
19. 金銭の使い方を学ぶ
20. 体調の悪いときに面倒をみてもらう
21. 娯楽や趣味について話をする
22. バスなどの交通機関を使う方法を学ぶ

表10 通所目的の男女間での比較

単位：人（%）

質問項目	男性				女性				検定*
	とても重要である	やや重要である	あまり重要でない	まったく重要なでない	とても重要である	やや重要である	あまり重要でない	まったく重要なでない	
1. 金銭の使い方を学ぶ	2.2 (42.3)	1.7 (32.9)	8 (15.4)	5 (9.6)	1.2 (44.4)	7 (25.9)	4 (14.8)	4 (14.8)	
2. 収入を得る	3.3 (64.7)	1.1 (21.6)	5 (9.8)	2 (3.9)	1.3 (48.2)	8 (29.6)	3 (11.1)	3 (11.1)	
3. 仕事につくための気力や体力を養う	3.4 (65.4)	1.4 (26.9)	3 (5.8)	1 (1.9)	1.5 (55.6)	5 (18.5)	4 (14.8)	3 (11.1)	
4. 作業所に通所することで、規則正しい生活を送れるようになります	3.9 (75.0)	1.1 (21.2)	2 (3.9)	0	1.5 (55.6)	7 (25.9)	3 (11.1)	2 (7.4)	
5. 他の通所者と楽しく過ごす	3.6 (69.2)	1.2 (23.1)	3 (5.8)	1 (1.9)	1.3 (48.2)	8 (29.6)	3 (11.1)	3 (11.1)	
6. 悩みを相談する	2.7 (51.9)	1.6 (30.8)	5 (9.6)	4 (7.7)	1.4 (51.9)	7 (25.9)	4 (14.8)	2 (7.4)	
7. 仕事に必要な人との付き合い方を学ぶ	2.6 (51.0)	1.7 (33.3)	5 (9.8)	3 (5.9)	9 (33.3)	1 4 (51.9)	3 (11.1)	1 (3.7)	
8. 働いているという喜びを得る	3.1 (59.6)	1.3 (25.0)	5 (9.6)	3 (5.9)	1.7 (63.0)	6 (22.2)	3 (11.1)	1 (3.7)	
9. 体調の悪いときに面倒をみてもらう	2.4 (46.2)	1.6 (30.8)	1 0 (19.2)	2 (3.9)	8 (30.8)	1 2 (46.2)	4 (15.4)	2 (7.4)	
10. 仕事につくための情報を得る	2.9 (53.8)	1.2 (23.1)	1 0 (19.2)	1 (2.0)	1 0 (37.0)	9 (33.3)	4 (14.8)	4 (14.8)	
11. 家族との関係をよくする	3.3 (64.7)	1.0 (19.6)	5 (9.8)	3 (5.9)	1 9 (73.1)	3 (11.5)	4 (15.4)	0	
12. 娯楽や趣味について話ををする	2.4 (46.2)	2.0 (38.5)	6 (11.5)	2 (3.9)	8 (29.6)	1 3 (48.2)	6 (22.2)	0	
13. 人ごとまく付き合う方法を学ぶ	2.8 (54.9)	1.8 (35.3)	2 (3.9)	3 (5.9)	1.5 (55.6)	7 (25.9)	3 (11.1)	2 (7.4)	
14. 病気の症状を軽くする	3.6 (70.6)	0 (19.6)	4 (7.8)	1 (2.0)	1 9 (70.4)	5 (18.5)	0	3 (11.1)	
15. 自分の能力に自信が持てるようになる	3.5 (68.3)	9 (17.7)	7 (7.8)	0	1 1 (40.7)	1 0 (37.0)	3 (11.1)	3 (11.1)	
16. 気分が落ちつき安心できる	3.8 (73.1)	1.0 (19.2)	3 (5.8)	1 (1.9)	1 4 (51.9)	9 (33.3)	3 (11.1)	1 (3.7)	
17. 仕事につくための技術を身につける	2.8 (54.9)	1.0 (19.6)	1 1 (21.6)	2 (3.9)	1 2 (44.4)	6 (22.2)	6 (22.2)	3 (11.1)	
18. 一日に決められた仕事をこなすことで充実感を得る	3.4 (66.7)	1.4 (27.5)	2 (3.9)	1 (2.0)	1.5 (55.6)	6 (22.2)	3 (11.1)	3 (11.1)	
19. あいさつなどの礼儀を学ぶ	3.4 (65.4)	1.3 (25.0)	3 (5.8)	2 (3.9)	2 0 (74.1)	5 (18.5)	2 (7.4)	0	
20. バスなどの交通機関を使う方法を学ぶ	1.8 (34.6)	1.3 (25.0)	1 1 (21.2)	1 0 (19.2)	9 (33.3)	8 (29.6)	6 (22.2)	4 (14.8)	
21. 一日の生活が家の中だけにとどまらず外出する機会になる	3.5 (68.6)	1.2 (23.5)	2 (3.9)	1 5 (55.6)	1 0 (37.0)	2 (7.4)	0		
22. 考えている事ややりたい事に自信が持てるようになる	3.3 (64.7)	1.1 (21.6)	6 (11.8)	1 (2.0)	1 1 (40.7)	8 (29.6)	7 (25.9)	1 (3.7)	

※Mann-Whitneyの検定 \*\*:p&lt;0.01, \*:p&lt;0.05

## ②男女間での比較

男女間で通所目的に関する質問への回答結果を比較し、表10に示す。男女間の比較で有意差が認められた質問項目は、「自分の能力に自信が持てるようになる( $p<0.05$ )」であり、男性でこの内容を通所目的として重要視する傾向が見られた。

また、「とても重要である」と回答した者の割合を比較すると、2群間で大きな差が見られた質問項目は、「自分の能力に自信が持てるようになる」「考えている事ややりたい事に自信が持てるようになる」「気分が落ち着き安心できる」「他の通所者と楽しく過ごす」「作業所に通所することで、規則正しい生活を送れるようになる」「仕事に必要な人との付き合い方を学ぶ」「仕事につくための情報を得る」「娯楽や興味について話をする」「収入を得る」「体調の悪いときに面倒をみてもらう」「一日の生活が家の中だけにとどまらず外出する機会になる」「一日に決められた仕事をこなすことで充実感を得る」「仕事につくための技術を身につける」の13項目であり、これら総ての項目で男性の割合が高くなっていた。

## ③年齢群間での比較

対象者を40歳未満と40歳以上の年齢群に分け、2群間で通所目的に関する質問への回答結果を年齢群間で比較したが、有意差の認められる質問項目は無かった。また、「とても重要である」と回答した者の割合の比較においても、2群間で大きな差の見られる質問項目は無かった。

## 4－4－2 就労に対する態度

### ①全体の傾向

就労に対する態度に関する質問への回答結果を図2に示す。この図2では「とても思う」と回答した人数の多い順に質問項目を並べてある。最上位の質問項目は、「仕事につくことは難しいことだ」37人であり、次いで、「これから仕事につけるか不安だ」「できるだけ早く仕事につかなくてはいけない」「仕事につかなくては、一人前にはなれない」の順であった。

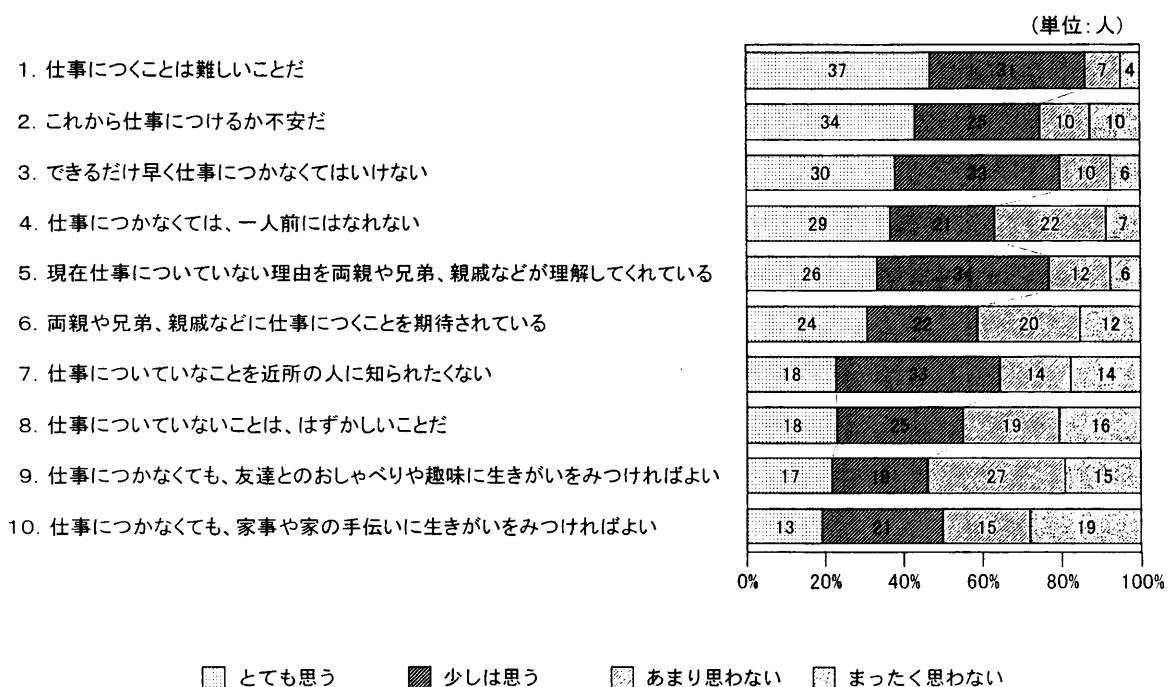


図2 就労に対する態度

## ②男女間での比較

男女間で就労に対する態度に関する質問への回答結果を比較し、表11に示す。男女間の比較で有意差が認められた質問項目は、「仕事につかなくても、家事や家の手伝いに生きがいをみつければよい( $p<0.01$ )」「仕事についていなことは、はずかしいことだ( $p<0.05$ )」「仕事につかなくては、一人前にはなれない

い( $p < 0.05$ )」であり、女性で「仕事につかなくても、家事や家の手伝いに生きがいをみつければよい」と思う傾向が、男性で「仕事についていないことは、はずかしいことだ」、「仕事につかなくては、一人前にはなれない」と思う傾向が見られた。

また、「とても思う」と回答した者の割合を比較すると、2群間で大きな差が見られた質問項目は、「仕事につかなくては、一人前にはなれない」「仕事についていないことは、はずかしいことだ」「仕事につかなくても、家事や家の手伝いに生きがいをみつければよい」「できるだけ早く仕事につかなくてはいけない」「両親や兄弟、親戚に仕事につくことを期待されている」「仕事についていないことを近所の人に知られたくない」の6項目であり、これらの項目うち「仕事につかなくても、家事や家の手伝いに生きがいをみつければよい」は女性の割合が高く、他は総て男性の割合が高くなっていた。

### ③年齢群間での比較

対象者を40歳未満と40歳以上の年齢群に分け、2群間で就労に対する態度に関する質問への回答結果を比較し、表12に示す。年齢群間の比較で有意差が認められた質問項目は、「仕事につかなくても、家事や家の手伝いに生きがいをみつければよい( $p < 0.05$ )」であり、40歳以上の群でこのように思う傾向が強くなっていた。

また、「とても思う」と回答した者の割合を比較すると、2群間で大きな差が見られた質問項目は、「両親や兄弟、親戚などのに仕事につくことを期待されている」「これから仕事につけるか不安だ」の2項目であり、いずれの項目も40歳未満の群の割合が高くなっていた。

表11 就労に対する態度の男女間での比較

質問項目	男性				女性				検定
	とても思う	少しは思う	あまり思わない	まったく思わない	とても思う	少しは思う	あまり思わない	まったく思わない	
1. できるだけ早く仕事につかなくてはいけない	2.3(44.2)	2.0(38.5)	6(11.5)	3(5.8)	7(25.6)	1.3(48.1)	4(14.8)	3(11.1)	
2. 仕事につくことは難しいことだ	2.5(48.1)	1.9(36.5)	5(9.6)	3(5.8)	1.2(44.4)	1.2(44.4)	2(7.4)	1(3.7)	
3. 仕事につかなくても、友達とのおしゃべりや趣味に生きがいをつけなければよい	1.2(23.5)	1.1(21.6)	1.8(35.3)	1.0(19.6)	5(18.5)	8(29.6)	9(33.3)	5(18.5)	
4. 仕事についていなることは、はずかしいことだ	1.6(31.4)	1.6(31.4)	1.1(21.6)	8(15.7)	2(7.4)	9(33.3)	8(29.6)	8(29.6)	*
5. 仕事につかなくては、一人前にはなれない、	2.5(48.1)	1.2(23.1)	1.1(21.2)	4(7.7)	4(14.8)	9(33.3)	1.1(40.7)	3(11.1)	*
6. 仕事につかなくても、家事や家の手伝いに生きがいをみつけなければならない	5(9.6)	9(17.3)	2.0(38.5)	1.8(34.6)	8(30.8)	1.2(46.2)	5(19.2)	1(3.9)	**
7. これから仕事につけるか不安だ	2.3(44.2)	1.7(32.7)	5(9.6)	7(13.5)	1.1(40.7)	8(29.6)	5(18.5)	3(11.1)	
8. 両親や兄弟、親戚などに仕事につくことを期待されている	1.8(35.3)	1.4(27.5)	1.3(25.5)	6(11.8)	6(22.2)	8(29.6)	7(25.6)	6(22.2)	
9. 現在仕事についていな理由を両親や兄弟、親戚などが理解してくれている	1.7(33.3)	2.4(47.1)	6(11.8)	4(7.8)	9(33.3)	1.0(37.0)	6(22.2)	2(7.4)	
10. 仕事についていなことを近所の人人に知られたくない	1.4(26.9)	2.2(42.3)	9(17.3)	7(13.5)	4(14.8)	1.1(40.7)	5(18.5)	7(25.6)	

※ Mann-WhitneyのU検定 \*\*: p&lt;0.01 \*: p&lt;0.05

表12 就労に対する態度の年齢群間での比較

質問項目	40歳未満					40歳以上			単位：人 (%)
	とても思う	少しは思思う	あまり思わない	まったく思わない	とても思う	少しは思う	あまり思わない	まったく思わない	
1. できるだけ早く仕事につかなくてはいけない	1.5 (42.9)	1.5 (42.9)	4 (11.4)	1 (2.9)	1.5 (34.1)	1.8 (40.9)	6 (13.6)	5 (11.4)	
2. 仕事につくことは難しいことだ	1.8 (51.4)	1.3 (37.1)	3 (8.6)	1 (2.9)	1.9 (43.2)	1.8 (40.9)	4 (9.1)	3 (6.8)	
3. 仕事につかなくても、友達とのおしゃべりや趣味に生きがいをみつければよい	8 (22.9)	9 (25.7)	1.2 (34.3)	6 (17.1)	9 (20.9)	1.0 (23.3)	1.5 (34.9)	9 (20.9)	
4. 仕事についていなさいことは、はずかしいことだ	9 (25.7)	1.0 (28.6)	6 (17.1)	1.0 (28.6)	9 (20.9)	1.5 (34.9)	1.3 (30.2)	6 (14.0)	
5. 仕事につかなくては、一人前にはなれない	1.3 (37.1)	8 (22.9)	1.0 (28.6)	4 (11.4)	1.6 (36.4)	1.3 (29.6)	1.2 (27.3)	3 (6.8)	
6. 仕事につかなくても、家事や家の手伝いに生きがいをみつければよい	5 (14.3)	6 (17.1)	1.2 (34.3)	1.2 (34.3)	8 (18.6)	1.5 (34.9)	1.3 (30.2)	7 (16.3)	*
7. これから仕事につけるか不安だ	1.8 (51.4)	1.0 (28.6)	4 (11.4)	3 (8.6)	1.6 (36.4)	1.5 (34.1)	6 (13.6)	7 (15.9)	
8. 両親や兄弟、親戚などに仕事につくことを期待されている	1.4 (40.0)	8 (22.9)	7 (20.0)	6 (17.1)	1.0 (23.3)	1.4 (32.6)	1.3 (30.2)	6 (14.0)	
9. 現在仕事についていない理由を両親や兄弟、親戚などが理解してくれている	1.2 (34.3)	1.5 (42.9)	5 (14.3)	3 (8.6)	1.4 (32.6)	1.9 (44.2)	7 (16.3)	3 (7.0)	
10. 仕事についていないことを近所の人間に知られたくない	7 (20.0)	1.9 (54.3)	4 (11.4)	5 (14.3)	1.1 (25.0)	1.4 (31.8)	1.0 (22.7)	9 (20.5)	

※ Mann-WhitneyのU検定 \* \*p&lt;0.01 \* : p&lt;0.05

## 4－5 考察

### 4－5－1 通所目的について

これまでいくつかの報告（全家連，1987；藤井，1990；荒井，1993；築瀬ら，1999a）で、作業所の持つ機能の多様さが指摘されてきた。今回の調査において総ての質問項目に対して過半数の通所者が重要であると回答したこと、通所者が多くの目的を持って作業所に通所していること、つまり作業所の持つ機能が多様であることを表すものである。すなわち、質問項目の内容が示すように、作業所は「生活を作る枠組み」「精神的な安定を得る場」「充実した楽しい時間を過ごす場」「人付き合いに慣れる場」「就労へ向けて準備をする場」「働く場」などとして多くの目的で利用されており、またこのことは、通所者の生活の大きな部分を作業所が担い、通所者の生活支援の拠点として重要な役割を果たしていることを示するものである。

次に、多様な通所目的の中でも、通所者がより重要視する通所目的を明らかにするために「とても重要である」と回答した人数の割合の多い質問項目に着目すると、「病気の症状を軽くする」「作業所に通所することで、規則正しい生活を送れるようになる」「あいさつなどの礼儀を学ぶ」「家族との関係をよくする」「気分が落ち着き安心できる」などが上位に位置づけられている。これら上位の質問項目は、生産的な作業を通して収入を得たり、就労援助を行うという作業所の特徴を反映したものではなく、この特徴を反映した質問項目「一日に決められた仕事をこなすことで充実感を得る」「仕事につくための気力や体力を養う」「働いているという喜びを得る」「収入を得る」「仕事につくための技術を身につける」などは中位以降に位置づけられている。このことから、通所者が重要視する通所目的は、必ずしも作業所の特徴を反映したものではなく、精神障害者が集まり何らかの活動に取り組むように設定された外来

作業療法やデイケアなどにも共通するものであると言える。また、このことは著者らが行った調査（築瀬ら，1999a）で得られた、通所者は作業所の役割として、「生活を作る」「生活を楽しむ」などを上位に位置づけていたという結果からも窺える。

男女間での比較では、「とても重要である」と回答した者の割合に大きな差の見られた質問項目は13項目であり、総ての項目で男性の割合が高くなっていた。また、その内容も多様であった。このことは、男性は女性より作業所に対する期待の幅が広く、またその程度が強い傾向にあり、作業所に生活の多くを依存していることを示していると考えられる。

年齢群間の比較では、通所目的に大きな違いは見られなかった。したがって、重要視される作業所の通所目的は、年齢を越えて共通していると思われる。

上述した内容に基づき精神障害者の生活支援を行う上で配慮すべき内容について検討を加えると、まず生産的な作業を通して収入を得たり、就労援助を行うという特徴を有した作業所でありながらも、通所者の通所目的としてこの特徴を反映した内容が重要視されていないという状況は、工賃の高い作業活動を確保できず、通所者に支払われる金額が僅かである（築瀬ら，1993b）ことや、作業所通所後の一般の事業所への就職が実際には困難であることが影響しているものと考えられる。今後、作業所が特徴を活かしながら精神障害者の生活を支援するには、ある程度工賃の高い作業活動を確保すること、また就労へ向けた訓練の方法の確立、就労支援に関連する他の施設等との連携が必要である。

次に、通所者は生活の大きな部分を作業所に依存しており、またその傾向が男性で強いことは、精神障害者の生活範囲や対人関係の範囲が狭い（Spivackら，1982；築瀬ら，1993a）ことの現れであり、特に男性においては、生活の範囲や対人関係の範囲を自ら拡大することが困難であることを示唆するものと思われる。現在の精神障害者の生活を支援するシステムが整っていない状況では、こ

の通所者の作業所への依存傾向を軽減させることは難しいと思われるが、作業所で通所者の生活の範囲や対人関係の範囲を把握し、個々の依存の程度やニーズを明らかにしておくことは重要であると考えられる。

なお、男女間での比較で男性に「自分の能力に自信が持てるようになる」を通所目的として重要視する傾向が見られたことについては、就労に対する態度の結果に加えて考察する。

#### 4-5-2 就労に対する態度について

通所者全体の就労に対する態度は、「とても思う」と回答した人数が多かった質問項目の内容から推察すると、通所者の多くが就労の必要性を意識しながらも、一方では就労することの難しさも感じているというものである。このような状況は、障害者全般に共通するものであろうが、精神的なストレスが病状の悪化へ繋がりやすい精神障害者においては、就労の必要性と困難性がどの程度本人に自覚され、どのような葛藤状態にあるかを把握することは、作業所で就労援助を行う上で特に重要なことであると考えられる。

就労に対する態度の男女間での違いについては、男女間の比較で有意差の認められた質問項目や「とても思う」と回答した者の割合に大きな差が見られた質問項目を基に男女の就労に対する態度の特徴について検討を加えると、男女共に「仕事につくことは難しいことだ」と認識しながらも、男性は、「仕事につかなくては一人前でなく、仕事についていないことはずかしいことであり、できるだけ早く仕事につかなくてはいけない」というように就労の必要性を強く意識しており、一方、女性では、「家事や家の手伝いに生きがいを見つければよい」というように就労の必要性の意識は弱いものである。

これらの男女間での違いは、著者らが分裂病通院患者の生活上のニーズと生

きがい感を明らかにすることを目的として実施した調査（築瀬ら, 1999b）で得られた、生きがい感に強い正の影響を与える質問項目が、男性では「仕事」「体力・気力」「食生活」であり、女性では「家事」「金銭」「健康」「頼りになる人」であったこととほぼ同じであり、このことは、社会の中で一般的に求められる役割が性により異なることによるものと考えられる。また、通所目的的男女間での比較で、男性に「自分の能力に自信が持てるようになる」を通所目的として重要視する傾向が見られたことを加味し検討すると、男性はとりわけ仕事に対する能力についての自信回復を求めているものと思われる。

さらに、精神障害者の就労が現実には決して容易ではないことを考慮すると、就労の必要性を強く意識する男性は、葛藤状態に陥りやすいことが推察され、したがって男女間での就労に対する態度の違いを考慮しながら定期的に通所者の考えを知るために面接を行うなどの配慮も作業所で精神障害者の生活支援を行う上で重要であると考えられる。

就労に対する態度の年齢群間での違いについては、年齢群間の比較で有意差の認められた質問項目や「とても思う」と回答した者の割合に大きな差が見られた質問項目を基に40歳未満の群と40歳以上の群の就労に対する態度の特徴について検討を加えると、40歳未満の群では、「両親や兄弟、親戚などに仕事につくことを期待されているが、これから仕事につけるか不安だ」というように就労に対して強い葛藤状態にあり、一方、40歳以上の群では、「家事や家の手伝いに生きがいをみつければよい」というように、就労に対する葛藤は幾分弱いものである。著者は、外来患者を対象に病院で行っている作業療法に参加している40歳台や50歳台の精神障害者から、就労がうまくいかなかった経験や就労していない現状を容認する意見をしばしば聞くことがあり、このことを加味すると、今回得られた結果は、現在就労していない40歳以上の通所者は、これまでの経験などから次第にあまり就労に執着しなくなつたとも考えられる。

さらに、就労に対する態度の男女間の違いでは、男性の通所者が就労の必要性を強く意識する傾向にあったことを考慮すると、男性の年齢による就労に対する態度の違いが、この結果に影響を及ぼしている可能性が高いと思われる。このような年齢による就労に対する態度の違いも、作業所で生活援助を行う上で配慮すべきであり、特に20歳台や30歳台の男性の通所者の就労への意欲が周囲の期待を過剰に取り入れた焦りによるものでないかを確認し、できるだけ無理のない方法で就労へと結びつけることが重要であると考えられる。

## 4 - 6 まとめ

- 1) 作業所の通所者を対象に、通所目的と就労に対する態度の全体的な傾向と性、年齢による違いを明らかにし、作業所で精神障害者の生活支援を行う上で配慮すべき内容について検討を加えることを目的に調査を実施した。
- 2) 通所者の通所目的は多様であった。そして、生産的な作業活動によって収入を得たり、就労援助を行うという作業所の特徴を反映した通所目的は中位以降に位置づけられた。
- 3) 通所目的の男女間での比較では、男性は女性より生活の多くを作業所に依存していることが窺えたが、年齢群間の比較では、明確な違いは認められなかった。
- 4) 就労に対する態度の全体的な傾向は、通所者の多くが就労の必要性を意識しながらも、一方では就労することの難しさを感じているというものであり、葛藤状態に陥りやすいことが推察された。
- 5) 就労に対する態度の男女間の比較では、男性において、年齢群間の比較では、40歳未満群において就労の必要性を強く意識する傾向が認められた。

6) 作業所で精神障害者の生活支援を行う上では、性による通所目的の違いや性、年齢による就労に対する態度の違いに配慮すべきであり、特に就労援助においては、20歳台や30歳台の男性の就労への意欲が周囲の期待を取り入れた焦りによるものでないかを確認する必要がある。